

世界展開力強化事業メキシコ長期派遣

第2回報告書

東京農業大学 国際農業開発学科

4年 吉田 優介

2019年12月20日、大学の前学期の授業と留学生との生活が終わりました。私が暮らしていた casa6 はブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルー、日本と一番国際的な部屋でした。共に過ごした約四か月は一生忘れられない経験となりました。南米の各国で友達ができたとをとてもうれしく思います。もっとスペイン語を学んで、また会話がしたいという目標ができました。

1. 10月

10月上旬には留学生とともに、1泊2日で Torantongo という場所に行ってきました。そこはメキシコシティから約北に164km北に位置し、イダルゴ州の山奥にある秘境スポットで、山の斜面に造られた源泉かけ流しの露天風呂や滝の下で源泉が噴き出す洞窟など世界的にも珍しい温泉郷です。私たちはそこでキャンプをしました。大自然の中の星空はとても魅力的でした。しかし、私は帰宅途中に今までに感じたことがないような腹痛を起こし、運ばれずに済みましたが、人生で初めて救急車に乗りました。メキシコでの生活にも慣れた時期での事故だったので、より一層気持ちが引き締まりました。



図 1:2019/10/6 Torantongo

10月下旬は日墨協会で働いている農大の先輩のお誘いもあり、日墨協会で開催されていた「秋祭り」のお手伝いをしました。「秋祭り」は熊本や広島、埼玉の県人会が日本の食べ物の販売や日本伝統文化のステージなど、日本をたくさん感じられるお祭りでした。(名古屋のご当地アイドルも来ていました) 私はカレーライスとおにぎりを売るお手伝いをしました。主に会計をしていたのですが、まだ数字の理解が発展途上であったためとても苦劳しました。しかしお客さんや一緒にカレーを売っていた料理人は、私の間違いの指摘や私がかかるように説明してくれました。たくさんの人に助けられたことによって楽しく働くことができました。

また10月から12月まで私はスペイン語を効率良く学ぶために、チャピング自治大学の日本語の先生の真理子先生のご厚意もあり、大学内の日本語の授業に参加させていただきました。そこで感じたことは、学生たちはどんなことでも積極的に質問をするので、チャピングの学生たちは学習意欲が高いということです。分かったことは、普段私が使っている日本語はあまり良くないということを感じました。間違った日本語は教えられないので、日本の文化や正しい言葉の意味を調べるようになりました。これは学習意欲が高い学生たちの影響を受けてのことだと思います。

2. 11月

ディズニー映画の「リメンバーミー」が有名かと思いますが、11月は *Dia de los muertos* つまり「死者の日」がありました。死者の日は日本でいうお盆で、日本と異なり、故人を盛大にカラフルに祀っています。私たちは留学生とともに Michuacan という町の中の Patzucaro Pueblo Magico、Janitzio、Tzintzuntzan と Mixquic に行ってきました。死者を祀っているお墓はろうそくやマリーゴールドで飾り付けられており、夜になると絶景が広がっていました。



図 2:死者の日

Michuacan の *Janitzio* は少し離れ島で、30分ほど船に乗って行きました。伝統的な踊りやホセ・マリア・モレロスというメキシコ独立の偉大な英雄の大きな像が島の頂上に建てられており見ごたえは抜群でした。

3. 12月

12月末にクラスの友達の家へ招待されたので、5泊6日で遊びに行ってきました。彼の家は豆農家を営んでおり、いわゆる地域農村で場所は *Tehuacan puebla* でメキシコシティからバスで5時間、そして彼の家は中心街から3時間で、携帯電話の電波が届かない山奥でした。彼の家は標高2500mで、夜になると流れ星が見られるほど満天の星空が広がっていました。農村のコミュニティは強く、大晦日はその地域に住んでいる人々が集まり年明けまで踊ったりお酒を飲んだり楽しんでいました。元旦には伝統行事のピニャータを家族でやり、充実した6日間を過ごしました。

4. 授業

MANEJO DE ECOTEVNOLOGIAS の授業では、実習がメインで wood ストープとバイオガスダイジェスターを作りました。Wood ストープはいわゆるカーボンニュートラルを実現できる環境に配慮した装置です。また、バイオガスダイジェスターとは再生可能エネルギーの一つで、家畜の糞尿などを発酵させて得られる可燃性ガスを作り出す装置です。今まで経験したことがないような組み立てやセメント塗るなど、実習はとても大事なことであったと改めて感じることができました。

AGUA AGROECOSISTEMA の授業では、研修旅行で *XILTLA* という大学から車で7時間の街に行ってきました。私たちは *XILTLA* の *San Huitzquilico* という良質な有機コーヒーが有名な集落に行き、2日間に渡りコーヒー農園や工場を見学しました。この地域は昔ながらの言語を話す人々もいるらしく伝統的な農村だそうです。昨年参加したメキシコ短期留学で、たくさんのコーヒー農園を訪問しましたが、コーヒーの種類や豆の甘さの違いがあり、コーヒーの世界は深く面白いなと純粋に感じました。



図 3: San Huitzquilico コーヒー農園

上記の通り 12 月 20 日ですべての授業が終わりました。私が取っていたそれぞれの授業の評価方法はレポートとグループワークの発表でした。レポートはまず初めに日本語で書いてから、Google 翻訳で訳し、文法や単語が間違えていないかを入念にチェックします。最後に自分で読んで理解します。タイトルが理解できなかつたり、調べても出てこない内容がありましたが、先生に聞いたりして何とか完成することができました。そして無事どちらの授業も単位を得ることができました。

5. 終わりに

上記の他に休日には、メキシコシティのチャプルテペック城、ラテンアメリカタワー、革命記念塔、国立人類学博物館、グアダルupes寺院やティオティワカンなどに行き、たくさんのメキシコの歴史や文化を見ることができました。また、みんなの誕生日をお祝いしたり、何気ない日にも寮の庭でキャンプファイヤーをして踊ったりお酒を飲んだりしてほぼ毎日がパーティのように感じました。私はたった一人の日本人で少し不安もありましたが、ルームメイトをはじめとした全留学生、そしてメキシコの友人たちのおかげで毎日楽しく過ごせることができました。

そして、チャピング自治大学での生活は今までの私の人生の中で最も充実したと思えるくらい濃い四か月でした。残りの約 2 か月間も気を抜かず、笑顔で過ごしていきます。